

# 赤ちゃんのきこえの検査（新生児聴<sup>ちょうかく</sup>覚スクリーニング検査） についてのご案内

おなかの赤ちゃんは、お母さんやお父さんの呼びかける声にどんな反応をしていますか？  
赤ちゃんの健やかな成長はみんなの願いです。

しかし、1,000人に1～2人の赤ちゃんが生まれつき耳のきこえに障害があるといわれています。きこえの障害は気づかれにくいという特徴がありますが、早くに発見して適切な援助を行うことがこどもの言葉と心の発達のためにはとても大切です。

当院では、赤ちゃんのきこえの検査（新生児聴<sup>ちょうかく</sup>覚スクリーニング検査）を実施しています。

## Q：どんな検査ですか？

検査は、自動 ABR と OAE の 2 種類の方法があり、病院によって検査方法が違います。どちらも赤ちゃんがぐっすり眠っている間に、専用のイヤホンを赤ちゃんの耳につけて行うものです。小さい音を聞かせて、そのとき脳（OAE の場合は耳）から出る反応を機械が測定し、精密検査の必要性を判定するための検査です。難聴の有無を判定するものではありません。数分で安全に行える検査で、痛みはまったくありませんし、副作用もありません。また、薬も使いません。

検査結果は、「pass(パス)」「refer(要再検)」のいずれかで、お産の入院中にお知らせします。

## Q：すべての赤ちゃんが検査を受けた方がよいのですか？

耳のきこえに障害があるかどうかは、外見ではわかりにくく、赤ちゃんの様子だけから判断することは困難です。

そのため、検査を受けられることをお勧めしますが、強制するものではありません。

## Q：検査の結果が「pass(パス)」だったときは？

お子さんの耳のきこえは現在のところ左右とも正常と思われれます。これからも、お子さんの耳のきこえの状態や言葉の発達を継続して見守っていくことが大切です。

この検査では、出生後の中耳炎やおたふくかぜなどの感染症が原因による難聴や、徐々に発現する難聴を発見することはできません。また、検査の精度等の理由でまれに、難聴があっても発見されない場合もあります。

子どもの成長や発達は一人ひとり違います。また、耳のきこえだけでなく、お子さんの発達の全体を含めて見ていくことが、健やかな成長を見守る上でとても大切なことです。

心配なことがある時は、市町・保健所の保健師等にご相談ください。

## Q：検査の結果が「要再検」だったときは？

専門の耳鼻咽喉科で、より詳しい検査を受けていただくことになります。

生まれたばかりの赤ちゃんは、耳のきこえが正常でも耳の中に水が残っていたり、脳の発達が未熟なために、きこえの検査にパスしないことがあります。また、検査のときに泣いたり、動きすぎたりしてうまく判定ができなかった可能性があります。

詳しい聴覚検査では、お子さんの発達を見ながら時間をかけて慎重に判断しますので、専門の耳鼻咽喉科のいる医療機関をご紹介します。

また、子育ての相談や適切な支援をするため、保護者の同意の上、検査結果を市町の保健師へ連絡させていただきます。

ご不明な点がございましたら担当医または看護師・助産師におたずねください。

